

海外感染症流行情報(2012年2月)

東京医科大学病院 渡航者医療センター

・鳥インフルエンザ患者の発生(続報)

2月もアジアやエジプトで鳥インフルエンザ(H5N1型)の患者が報告されています。

ベトナムでは1月末に26歳の女性(妊婦)が発病し、1月28日に死亡しました(WHO Global Alert and Response 2012-2-8)。この女性は病気の鳥を食べて感染したと推定されています。インドネシアでもジャカルタに近いバンテン州で、19歳の女性が2月中旬に死亡しました(WHO Global Alert and Response 2012-2-21)。エジプトでは2月になり45歳女性の患者(死亡)と1才女児の患者(回復)が確認されています(WHO Global Alert and Response 2012-2-22, 24)。

国際獣疫事務局(OIE)の発表によれば鳥類での鳥インフルエンザ(H5N1型)の流行は、香港、ベトナム、インド、ネパールで報告されています(検疫所 HP 2012-2-13, 20)。患者発生国や鳥類での流行が発生している国に滞在中は、生きた家禽を販売している市場などに立ち入らないよう注意してください。

・タイのデング熱患者数は減少傾向

バンコク周辺などで昨年10月におきた洪水の影響により、被災地でのデング熱の流行が危惧されていますが、今のところ患者数は減少している模様です(Pro MED 2012-2-6)。タイ全土の公立病院のデング熱患者数は今年1月が1056人で、昨年同期の36.2%減になっています。またバンコクでも、今年の1月は患者数が130人で昨年より大幅に減少しました。これは洪水の影響で蚊の繁殖が阻害されたためと考えられています。しかし、今後も患者数の推移を見守る必要があります。

・北半球でのインフルエンザの流行

WHOの発表によれば西ヨーロッパ、北アフリカ、中国などでのインフルエンザの流行はピークを越えたようです(WHO Influenza Update 2012-2-17)。一方、米国・カナダ・東ヨーロッパでは引き続きインフルエンザ患者の増加が続いています。検出されたウイルスの種類としてはA(H3N2)型が最も多く、中国ではB型が多くなっています。全般的に北半球の流行は例年と比較して大流行には至っていないようです。

日本では2012年第7週(2012年2月13~19日)の定点当たり報告数が35.44で、第5週の42.62をピークとして2週連続して減少しました。ウイルスの種類としては、他の北半球の国々と同様にA(H3N2)型が最も多く検出されています(国立感染症研・感染症情報センターHP 2012-2-24)。

・バングラデッシュでのニパウイルス脳炎の流行

バングラデッシュ北西部のジョイプールハットでは、1月下旬よりニパウイルスによる脳炎の患者が6名発生し、全員が死亡しました(Pro MED 2012-1-28, 2-12)。このウイルスは1999年にマレーシアで発見されたものですが、その後の調査で、バングラデッシュでも流行していることが明らかになりました。

このウイルスはコウモリが保有しており、その体液で汚染された果物や加工食品を経口摂取して感染します。ジョイプールハット周辺では、この時期にナツメヤシのジュースが生産されますが、その過程でウイルスに汚染されたものと推測されています。バングラデッシュでは 2001 年以来、208 人の患者が確認されており、このうち 157 人が死亡しています。

・ケニアのマサイマラを訪問した旅行者にトリパノゾーマ症が発生

今年 1 月～2 月にケニアのマサイマラを訪れたヨーロッパ人旅行者 2 名が、帰国後にトリパノゾーマ症を発病しました。一人はドイツ人旅行者(61 歳男性)で 1 月 18 日～19 日かけてマサイマラに滞在しています。帰国後に発熱をおこし、フランクフルトの病院で血液検査によりトリパノゾーマ症と診断されました(Pro MED 2012-2-2)。もう一人はベルギー人旅行者で、マサイマラには 2 月に 3 日間滞在しています。帰国後に発熱をおこし、アントワープの病院で血液検査により診断されました。いずれの事例もスラミンの投与で回復しています(Pro MED 2012-2-22)。

トリパノゾーマ症はアフリカのサバンナ地帯を中心に流行している原虫疾患で、ツェツェ蠅に刺されて感染します。発熱、頭痛、皮疹などの症状をおこし、進行すると中枢神経の症状(意識障害など)を併発します。このためアフリカ睡眠病とも呼ばれています。マサイマラは日本人旅行者にも人気の観光スポットであり、滞在中はツェツェ蠅に刺されないように十分な注意が必要です。